

天保期幕府財政の新史料（二）

——天保四年「大坂御金蔵金銀并灰吹銀納払御勘定帳」渡の部——

近世経済史料研究会

凡例

- 一、本稿は、前号掲載分と合わせ、三井文庫蔵「大坂御金蔵金銀并灰吹銀納払御勘定帳」の全文翻刻を行うものである。史料の性格については、前号掲載の解題を参照されたい。
- 一、字体は原則として通用の字体を用いた。
- 一、変体仮名は現行の仮名に改めたが、助詞の江、而は漢字のまま、小さくして用いた。おはよりに改めた。
- 一、読みやすくするため、適宜に句点・並列点を入れた。
- 一、丁の区切りは（ ）内に原本の丁数を入れて示した。
- 一、翻刻および校正にあたったメンバーは下記の通りである。
（五十音順）

荒木裕行、大橋毅顕、酒井一輔、佐藤雄介、

下向井紀彦、高槻泰郎、福澤徹三、村和明、
若山太良

（以上）

訂正箇所

前号の刊行後、下記の史料翻刻部分の誤りについてご指摘を頂戴したので、ここに謹んで訂正するとともに、ご指摘くださった大野瑞男氏に謝意を表したい。

- ・二六四頁下段五行目（誤）「末年は」↓（正）「末年は」
- ・二七五頁下段六行目（誤）「去卯年」↓（正）「去ル卯年」

(前号より続く)

田幸太夫・田口五郎左衛門添状を以渡

(五七才)

一銀貳貫貳百貳拾七匁式分

同人

右渡方

是は御代官所拜

定式御遣方金銀

仙洞・准后御料、私領、寺領入会立会山城・丹波・播磨国村々

金貳千八百五拾兩

(五八才)

一 内式朱判三百五拾兩

小堀主税

銀貳千五百八拾貫目

内小玉銀貳百貳拾貫目

是は京都諸方定式・臨時渡方御入用金銀、太田備後守裏判手形、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守定証文を以渡

用水堰樋類川除堤切破損所、去巳春御普請御手当銀并御手当米石代銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

(五七ウ)

一銀七拾八貫四百五拾五匁四分

小堀主税

内小玉銀七貫五百目

是は知恩院宮御門室、仕越拜跡仕越御修復御入用拜手代御手当金代、棟梁動料、飯米代共、松平伊勢守・深谷遠江守奥判手形、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下

一銀拾八貫目

同人

内小玉銀壹貫五百目

是は去巳年二条御城内御囲廻之内、江戸江御取下相成、右御廻廻ニ掛り候諸御入用銀主税方江相渡、手代・足輕・小者木錢・本馬賃錢・筆墨紙蠟燭代、其外諸向江相渡候分共、銀貳拾壹貫百四拾五匁壹分四厘之内内借銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居

八右衛門裏判手形を以渡

弥三郎置添状を以渡

（五八ウ）

一銀五拾貫百七拾三匁六分

小堀主税

一銀貳貫貳百六拾老匁貳分

同人

内小玉銀四貫五百目

是は御代官所去巳年中諸入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

是は御代官所大和・近江国村々并伊東主膳上知、去巳春用水川除御普請御手当銀并普請入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

一銀五百貳拾三匁四分

石原清左衛門

（五九ウ）

一銀三百五拾九匁

石原清左衛門

是は大津御藏、近江国湖上船改、日吉御神事定式御入用銀、去々辰十二月より去巳四月迄之分三百七拾三匁七分并同五月より同十一月迄之分式百八拾目七分宛相渡来候処、去ル丑年より

是は支配近江国大津入牢之者共、去々辰年分諸御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

（五九オ）

去巳年迄五ヶ年御俵約御年限中、式割減之積を以銀百三拾目八分八厘引之、松平伊勢守・深谷遠江守裏判手形、

一銀五拾目六分

同人

水野和泉守・安藤対馬守・松平左近将監定証文并駒木根肥後守・寛播磨守・久松大和守・稲生下野守・萩原源左衛門・杉岡弥太郎・辻六郎左衛門・神谷武右衛門・細田

是は近江国高嶋郡船木村番所并連上材木入置候小屋、去々辰年分敷地年貢并口米代銀、右同人裏判手形を以渡

一銀貳貫貳百三拾五匁四分

同人

(六〇才)

是は近江国高嶋郡船木村材木改番所并同国滋賀郡途中村
抜木改番所諸御入用銀、去々辰年分、右同人裏判手形を
以渡

一銀七拾四匁式分

同人

是は御代官所撰津国川辺郡多田銅山役所、去々辰年分諸
御入用銀、右同人裏判手形を以渡

一銀百三拾目式分

同人

是は山城国宇治橋掛直御普請并橋付両社等御修復出来栄
見分御用中、清左衛門并手代其外諸御入用銀、右同人裏
判手形を以渡

(六〇ウ)

一金拾六兩

石原清左衛門

内 式朱判八兩
壹朱銀八兩

是は御代官所撰津国川辺郡多田銅山敷廻り之者式人・中
間老入、去已年分御給金、曾我豊後守・土方出雲守・内
藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川
忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏

判手形を以渡

一銀四拾七匁九分

同人

是は去ル卯年、大津町人并播磨国太郎太夫村百姓御用出
金銀上納之分、辰・巳両年御下ケ戻相済候残元金銀、午
より丑迄式拾ヶ年賦御下ケ戻、去々辰年分大坂御金蔵よ
り相渡、大津迄付越候諸御入用銀、曾我豊後守・土方出
雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・

(六一才)

館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田
口五郎左衛門裏判手形を以渡

一銀四百式拾貳貫五百三拾五匁五分

同人

内小玉銀四拾貫目

是は近江国村々去々辰御物成大津御蔵詰米之内、御遣方
残大津町箔屋金兵衛引請買替納ニ相成、金兵衛江可相渡
同所御蔵御払米代銀は、三井組江相渡、江戸御金蔵納相
成、右直段を以其時々御金蔵より相渡候積、曾我豊後守・
土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑
本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・
石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を

以渡

（六一ウ）

一銀三拾貳貫四百目

石原清左衛門

内小玉銀三貫目

是は近江国去々辰御年貢大津御蔵詰米之内、御遣方残代米買替納大津町箔屋金兵衛引請候分、米五千四百石江戸御廻米之積、於大坂川口湊船割、御代官江引渡相濟候ニ付、米壹石ニ付銀六匁宛御手当銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

一銀五拾貫百七拾三匁六分

同人

内小玉銀四貫五百目

是は御代官所去巳年中諸入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

是は御代官所大和国村々去巳春用水川除御普請銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・大竹庄九郎裏判手形を以渡

一銀七百四拾目貳分

同人

是は御代官所大和国宇陀郡松山町薬種屋藤助江被仰付候かたくり粉、去々辰・去巳年分御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

（六一ウ）

一銀式拾貫六百九拾四匁三分

木村惣左衛門

是は御代官所去巳年中諸入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

（六一オ）

一銀壹貫貳百六拾壹匁

木村惣左衛門

一銀式拾貫六百九拾四匁三分

上林六郎

是は御代官所高式万石余諸入用三万石分被下候積、去巳

年中諸入用銀、右同人裏判手形を以渡

(六三才)

一銀拾三貫百八拾九匁八分

高木栄太郎

此金貳百拾壹兩貳分・永百拾五文

内 金百七拾八兩貳分・永百拾五文

金三拾三兩

但右同断

但壹兩ニ付銀六拾貳匁三分三厘替

是は去々辰四月壹万石増地被仰付、同七月郷村請取候間、御代官所高式万石余諸入用三万石高被下候ニ付、壹ヶ年金四百貳拾兩之内、去々辰八月より十二月迄閏月共六ヶ月分并検見入用共、牧野長門守裏判手形、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫置添状を以渡

一銀壹貫四百三拾八匁三分

同人

此金貳拾三兩・永七拾六文

但右同断

是は去々辰四月壹万石増地被仰付、当分御預所壹万石高

(六二ウ)

壹ヶ年諸入用金五拾兩之十三ヶ月割を以、去々辰八月より十二月迄閏月共六ヶ月分牧野長門守裏判手形、曾我豊

後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門置添状を以渡

一銀拾六貫四百拾貳匁六分

高木作右衛門

此金貳百五拾八兩

内 金百貳拾九兩

但壹兩ニ付銀六拾三匁五分替

金百貳拾九兩

但壹兩ニ付銀六拾三匁七分三厘替

是は御代官所高式万石余諸入用三万石高被下候ニ付、壹ヶ年金四百貳拾兩之内、三拾三兩は検見入用之分追而請取候積、去巳正月より同八月迄八ヶ月分、右同人裏判手形、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫置添状を以渡

(六四才)

一銀貳貫百貳拾目三分

同人

此金三拾三兩・永三百三拾貳文

内 金拾六兩貳分・永百六拾六文

金拾六兩貳分・永百六拾六文

但右同断

是は当分御預所高壹万石之諸入用、壹ヶ年金五拾兩之内、去巳正月より同八月迄八ヶ月分、右同人裏判手形、曾我

豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門置添状を以渡

一銀七百五拾貫目

内小玉銀七拾五貫目

是は五畿内・中国・西国・北国・出羽国、去巳御年貢米
粃・

添田一郎次

大原吉左衛門

（六四ウ）

大豆、江戸・大坂廻船運賃銀之内、前貸・後渡・右割増銀共、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・大竹庄九郎裏判手形を以渡

一銀四拾三貫拾八匁八分

内小玉銀四貫目

是は佐渡国去々辰御年貢、大坂廻米海上運賃并難波御蔵納入用銀共、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下

矢嶋藤藏

辻富次郎

田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

一銀四拾三貫四百目

内小玉銀四貫目

（六五才）

是は佐渡国去巳御年貢右同断、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・大竹庄九郎裏判手形を以渡

一銀三拾貳貫八百拾七匁六分

内小玉銀三貫目

同人

是は二条御蔵御囲粃之内、臨時江戸御廻粃海上運賃前貸并差配料銀共、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

添田一郎次

大原吉左衛門

(六五ウ)

一銀式拾六貫式百八拾七匁式分

内小玉銀式貫五百目

是は近江国大津御蔵詰代米、臨時江戸御廻米廻船運賃銀并川内上荷茶船賃銀共、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門添状を以渡

矢嶋藤蔵

辻富次郎

一銀八匁

是は石原清左衛門取扱去ル卯大津御蔵詰米御遣方残代米、於大坂表請取之、江戸御廻米被仰付候ニ付、右御用中差出候手付・手代御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

矢嶋藤蔵
辻富次郎

一銀百四拾七匁七分

是は元御代官所播磨国村々、去ル卯御物成江戸御廻米五里外賃銀、右同人裏判手形を以渡

矢嶋藤蔵

一銀三貫五拾三匁

但銀七拾壹枚

是は御廻米廻船改方兼役廻船年寄并廻船惣代之者共江被下置候役料銀去巳年分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・

添田一郎次

大原吉左衛門

(六六ウ)

一銀百七匁六分

是は御代官所撰津・河内国村々、去ル卯御物成二条御詰米・大豆御蔵納出役手代御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

矢嶋藤蔵

(六六才)

田口五郎左衛門・鳥居八右衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・大竹庄九郎裏判手形を以渡

一銀七拾七匁九分

同人

是は藤蔵儀、摂津・河内・播磨国江場所替被仰付、大和
国五条陣屋より大坂鈴木町御役宅江引越道中御入用銀、
右同人裏判手形を以渡

（六七才）

一銀拾壹貫三百九拾目四分

同人

内小玉銀壹貫目

此金百八拾壹兩貳分・永百六拾六文 但壹兩ニ付銀六拾貳
匁七分替

是は御代官所六万石高之諸入用壹ヶ年金六百兩之内、檢

見入用金五拾五兩相除、去巳正月より四月迄四ヶ月分、

右同人裏判手形を以渡

一銀壹貫四拾四匁九分

同人

此金拾六兩貳分・永百六拾六文 但右同斷

是は当分御預所壹万石高之諸入用、壹ヶ年金五拾兩之内、

去巳正月より四月迄之分、右同人裏判手形を以渡

（六七才）

一銀貳貫九拾壹匁八分

矢嶋藤蔵

此金三拾三兩・永三百三拾貳文

金貳拾六兩貳分・永百六拾六文 但壹兩ニ付銀六拾貳
匁七分替
内 金六兩貳分・永百六拾六文 但壹兩ニ付銀六拾三
匁三分替

是は堤奉行廻船改御役料、壹ヶ年金八拾兩之積を以去巳

正月より五月迄五ヶ月分、曾我豊後守・土方出雲守・内

藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川

忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

一銀百目壹分

辻富次郎

是は元御代官所摂津・河内国村々、去ル卯御物成二条御

詰米・大豆納出役手代御入用銀、曾我豊後守・土方出雲

守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・

中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛

門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

（六八才）

一銀拾貫三百四拾五匁五分

同人

内小玉銀壹貫目

此金百六拾五兩 但壹兩ニ付銀六拾貳匁七分替

是は御代官所五万石高諸入用金五百五拾兩之内、檢見入

用五拾五兩相除、去巳正月より四月迄三分一之分、曾我

豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠

四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎
左衛門裏判手形を以渡

一銀壹貫四拾四匁九分

同人

此金拾六兩貳分・永百六拾六文 但右同断

是は当分御預所壹万石高諸入用金五拾兩之積、去巳正月
より四月迄三分一之分、右同人裏判手形を以渡

(六八ウ)

一銀貳貫九拾壹匁八分

辻富次郎

此金三拾三兩・永三百三拾貳文

内 金貳拾六兩貳分・永百六拾六文

内 金六兩貳分・永百六拾六文

但壹兩ニ付銀六拾貳匁七分替
但壹兩ニ付銀六拾三匁三分替

是は堤奉行廻船改老ヶ年御役料金八拾兩之積を以去巳正
月より五月迄五ヶ月分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤
隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠
五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

一銀七百貳拾四匁

添田一郎次

是は当分御預所播磨国赤穂郡苔繩村、去巳春用水井堰川
除御普請御手当銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人

正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・
下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之
丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

(六九才)

一銀貳拾六貫貳百三拾六匁三分

同人

内小玉銀貳貫目

此金四百拾八兩壹分・永八拾三文

内 金百八拾壹兩

内 金貳百三拾七兩壹分・永八拾三文

但壹兩ニ付銀六拾三匁五分替

是は御代官所六万石高之諸入用金六百兩之内、檢見入用
共、去巳五月より十二月迄八ヶ月分、曾我豊後守・土方
出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵
五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居
八右衛門裏判手形を以渡

一銀貳貫九拾壹匁五分

同人

此金三拾三兩・永三百三拾二文

内 金拾六兩貳分・永百六拾六文

内 金拾六兩貳分・永百六拾六文

是は当分御預所壹万石高之諸入用金五拾兩之積、去巳五

月より十二月迄八ヶ月分、右同人裏判手形を以渡

（六九ウ）

一銀貳貫九百貳拾六匁五分

添田一郎次

此金四拾六兩壹分・永四百拾五文

内 金拾九兩三分・永貳百四拾九文

但老兩ニ付銀六拾三匁

金貳拾六兩貳分・永百六拾六文

但老兩ニ付銀六拾貳匁五分替

是は堤奉行廻船改老ヶ年御役料金八拾兩之積を以去巳六月より十二月迄七ヶ月分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀貳貫六百八拾九匁

大原吉左衛門

是は御代官所并当分御預所河内・播磨国村々私領立会、去巳春用水井堰川除溜池堤掘抜梓樋御普請御手当銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

（七〇オ）

一銀貳拾四貫百四拾五匁

同人

内小玉銀貳貫目

此金三百八拾五兩

内 金百六拾五兩

但老兩ニ付銀六拾三匁替

金貳百貳拾兩

但老兩ニ付銀六拾貳匁五分替

是は御代官所五万石高之諸入用老ヶ年金五百五拾兩之内、檢見入用共、去巳五月より十二月迄八ヶ月分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀貳貫九拾老匁五分

同人

此金三拾三兩・永三百三拾貳文

内 金拾六兩貳分・永百六拾六文

但右同断

金拾六兩貳分・永百六拾六文

但右同断

是は当分御預所老万石高之諸入用老ヶ年金五拾兩之内、去巳五月より十二月迄八ヶ月分、右同人裏判手形を以渡

（七〇ウ）

一銀貳貫九百貳拾六匁五分

大原吉左衛門

此金四拾六兩壹分・永四百拾五文

内 金拾九兩三分・永式百四拾九文 但壹兩ニ付銀六拾三匁替
金式拾六兩貳分・永百六拾六文 但壹兩ニ付銀六拾貳匁五分替

是は堤奉行廻船改御役料々々年金八拾兩之積を以去巳六月より十二月迄七ヶ月分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀貳貫三百目

青山九八郎

是は御代官所并支配所大和国村々、去巳春用水川除道橋御普請御手当銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

(七一才)

一銀百拾匁貳分

同人

是は御代官所大和国吉野郡北山郷御材木寸間改出役手代壹人・下役貳人、御用中諸人用銀去巳年分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門

裏判手形を以渡

一銀三拾四貫四百九拾目五分

同人

内小玉銀三貫目

是は御代官所去巳年中諸人用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

(七一才)

一銀三貫百三拾六匁五分

青山九八郎

是は当分御預所去巳年中諸人用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀九貫八拾目七分

多羅尾敷負

是は御代官所伊東主膳上知近江国村々、去ル卯年御物成本途見取小物成石代銀、去々辰二月中致上納置候処、主膳元拝借御貸付金返納并村方先納金江下戻之積被仰渡候ニ付、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・

田口五郎左衛門裏判手形を以渡

（七二オ）

一銀三拾七貫六百貳拾六匁七分

同人

内小玉銀三貫目

是は御代官所去巳年中諸入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀拾三貫五百五拾四匁壹分

本庄伊勢守

是は伏見御役所去ル卯年中品々御入用之内、臨時御入用之分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

（七二ウ）

一銀六貫目

本庄伊勢守

是は伏見御役所御入用、御儉約中御定高去巳年分、柳生主膳正・小笠原伊勢守・松平兵庫頭・肥田豊後守・永田備後守・金沢瀬兵衛・羽田藤右衛門・松山惣右衛門・梶野平九郎・篠山十兵衛置添状を以渡

一銀貳貫百五拾目

加納遠江守

是は伏見奉行就被仰付候組同心挿物・合印羽織御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門置添状を以渡

（七三オ）

一銀老貫五百拾九匁

太田備後守与力

是は御用筆墨紙其外諸入用銀、壹貫五百九拾九匁宛相渡来候処、文化十五寅年より三ヶ年御儉約被仰出候ニ付、右御年限中五分相減、銀七拾九匁九分五厘引之、相渡候処、其後引続御儉約被仰出、同様相渡候処、猶又去ル丑年より五ヶ年之間御儉約被仰出候ニ付、去ル寅より当年迄、是迄之通五分相減、去巳年分、松平伊勢守・深谷遠江守奥判手形、柳生主膳正・石川左近将監・小笠原和泉守・松平兵庫頭・河尻甚五郎・岡松八右衛門・金沢瀬兵衛・村垣左太夫・羽田藤右衛門・松山惣右衛門置添状を以渡

（七三ウ）

一銀八百六拾目

松平伊豆守家来

但銀貳拾枚分

是は大阪御弓奉行上田五兵衛、御具足奉行兼帶相勤候ニ付、為御褒美被下銀、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文を以渡

一銀八百六拾目

同人家来

但銀貳拾枚分

是は大坂御鉄砲奉行石渡彦太夫、御金奉行兼帶相勤候ニ付、為御褒美被下銀、右同人証文を以渡

(七四才)

一銀貳百拾五匁

大久保出雲守家来

但銀五枚分

是は遠藤但馬守組与力米倉左一郎儀、老衰ニ付願之通退番申渡、数年無滞相勤候ニ付、為御褒美被下銀、右同人証文を以渡

一銀六貫貳拾五匁

松平紀伊守家来

是は丹波国保津川筏式拾分一運上材木品々御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

(七四ウ)

一銀六百九拾七匁七分

松平紀伊守家来

是は丹波国龜山領保津川筏式拾分一運上、木揚場水除三角簀并堀所埋井戸建札御修復品々御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀八百七拾八匁七分

松平出羽守家来

是は御預所隱岐国御船觀音丸并橋船新造・立櫓仕替御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

(七五才)

一銀百四匁

同人家来

是は御預所隱岐国周吉郡之内犬来村、去巳春潮除石堤御普請御入用御手当銀并御手当米石代銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・大竹庄九郎裏判手形を以渡

一銀四百五十拾目

同人家来

是は御預所隱岐国那久村百姓宇平太倅才之助遠嶋被仰付候ニ付、隱岐国より出雲国迄渡海船賃御入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門裏判手形を以渡

遠江守掛りニ而手入致出精候村々江、壹ヶ年銀三貫目迄之目当を以、大坂市中川浚冥加金之内より為御手当被下候付去巳年分、柳生主膳正・小笠原伊勢守・松平兵庫頭・水野若狭守・金沢瀬兵衛・羽田藤右衛門・松山惣右衛門・梶野平九郎・篠山十兵衛置添状を以渡

(七五ウ)

一大判金貳枚

松平伊勢守

深谷遠江守

是は二条御城御門番之頭石渡龜次郎老衰ニ付、願之通御役御免、小普請入被仰付、年寄候迄無懈怠相勤候付為御褒美被下金、太田備後守裏判手形、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文を以渡

一銀七拾貫目

同人

内小玉銀七貫目

是は京都町奉行兩御役所御入用御定高、片御役所三拾五貫目宛、安永五申年より年々相渡候積去巳年分、石谷豊前守・安藤弾正少弼・太田播磨守・桑原能登守・松本十郎兵衛・根岸九郎左衛門・倉橋与四郎・久保田十左衛門置添状を以渡

(七六ウ)

一銀貳貫六百五十拾壹匁六分

同人

但鑊貳百八拾貫文分

但壹貫文ニ付銀九匁四分七厘替

是は山城・大和・近江・丹波国土砂留御普請所之内、伊勢守・

一銀七拾八貫四百拾貳匁六分

松平伊勢守

内小玉銀四貫目

深谷遠江守

是は京都町奉行兩御役所去ル卯・去々辰年臨時御入用銀、都合九拾七貫四百九拾目八分三厘五毛七弗之内、拾九貫七拾八匁式分は御土居敷御物成銀御貸付利銀請取候ニ付引之殘銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉

(七六オ)

飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸
太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

一 銀三百五貫目

内小玉銀三十拾貫五百目

深谷遠江守

是は去ル寅年二条御城内外地震ニ而破損所御修復御入用、
其外御普請中会所小入用・湯番・茶番・小使賃銀等御入
用并京都町奉行於御役所前調・跡調・割賦取調御入用共、
銀六百八拾四貫三百

(七七才)

四拾八匁三分五厘之内、銀貳百五拾貫目は去々辰年相渡
候内借銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂
飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五
郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

一 銀貳百拾五匁

但銀五枚分

戸塚備前守

是は備前守組同心久米孫三郎儀、老衰ニ付願之通御暇被
下、数年無懈怠相動候ニ付、為御褒美被下銀、松平伊豆
守証文を以渡

一金八拾八兩貳分

戸塚備前守
矢部駿河守

是は唐物売買方取締ニ付、右取締役・改役之者被仰付、
取締方ニ而之諸入用金并骨折料被下候ニ付去巳年分、篠
木六左衛門・若林市左衛門印状を以渡

(七七才)

金貳百六拾貳兩貳分

一 式朱判百貳拾五兩
壹朱銀百三十拾七兩貳分

戸塚備前守
矢部駿河守

銀六拾四貫百貳拾八匁

是は大坂両町奉行所御入用御定高、片御役所四拾貫目宛、
天明八申年より年々相渡候積、去巳年中諸入用金銀、柳
生主膳正・久世丹後守・根岸肥前守・久保田佐渡守・曲
淵甲斐守・大林与兵衛・村垣左太夫・佐久間甚八・大久
保内膳置添状を以渡

一 銀貳百三十拾四貫四百九拾三匁貳分

同人

内小玉銀貳拾壹貫目

(七八才)

是は大坂市中川浚御入用壹ヶ年銀貳百三十拾五貫目迄相渡

候積を以、去ル寅より来ル亥迄拾ヶ年之間、渡方被仰付候
ニ付去巳年分、村垣淡路守・曾我豊後守・土方出雲守・
内藤隼人正・明楽八郎右衛門・館野忠四郎・中村長十郎・
守屋権之丞・柑本兵五郎置添状并加藤惣兵衛・保田定市
印状を以渡

久世伊勢守

一銀四貫四百貳拾五匁

戸塚備前守

矢部駿河守

是は大阪市中川々両川口於渡所召仕候小頭五人賃銀、一
日老入ニ付貳匁五分宛之積、去巳正月朔日より同十二月
晦日迄、小ヲ六日引、此延日数千七百七十日分、柳生主
膳正・中川飛驒守・石川左近將監・小笠原和泉守・松平
兵庫頭・河尻甚五郎・鈴木門三郎・岡松八右衛門・金沢
瀬兵衛・村垣左太夫置添状を以渡

（七八ウ）

一銀壹貫九百四拾壹匁六分

久世伊勢守

戸塚備前守

組与力

是は大阪川渡御用相勤候両町奉行組、仮役同心、勤日数を
以老入ニ付貳人扶持宛、時相場を以銀ニ而被下候ニ付、

久世伊勢守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形、桑原伊
予守・松本伊豆守・赤井豊前守・久世丹後守・倉橋与四
郎・久保田十左衛門・中野藤十郎・飯塚伊兵衛置添状を
以渡

一金拾八兩

式朱判九兩

内
壹朱銀九兩

戸田備前守
組与力

（七九才）

是は撰津国兵庫和田崎船見番式人并兵庫西宮勤番所門番
人式人、御給金去巳年分、戸塚備前守・矢部駿河守裏判
手形、石谷備後守・安藤弾正少弼・小野日向守・松平对
馬守・上遠野源太郎・川井次郎兵衛・辻源五郎・山下平
兵衛置添状を以渡

一銀七貫四百三拾七匁九分

銀四百三拾目

梶野土佐守

此銀拾枚分

是は南都東大寺正倉院御開封・御修復ニ付、仮建物其外
御入用銀・公人装束料、曾我豊後守・土方出雲守・内藤
隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸

太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

一銀八拾五匁五分

同人

(七九ウ)

一銀貳百貳拾八匁貳分

太田運八郎

是は去巳年琉球人帰国ニ付、伏見より川口迄通行之節、

船々差出候品々臨時御入用銀、松平伊豆守・大久保出雲

守・久世伊勢守・戸塚備前守裏判手形を以渡

一銀六拾五匁

同人

是は大坂川口三御番所・両御船屋松鋸都合九門分、諸色・

人足手間共御入用銀、右同人裏判手形を以渡

一銀七百拾五匁貳分

同人

是は大坂川口三御番所御役所向筆紙墨・御鉄砲磨雜費・

小使人足御手当・御貸船出候節諸賄物代等品々御入用銀、

松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・久世伊勢守・

戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形を以渡

(八〇ウ)

一銀拾八貫五百目

御修復掛り

山岡仁右衛門

是は摂津国豊嶋郡長興寺村御鉄砲合葉御蔵五棟・同外囲

土塀所々御修復請負代銀高拾八貫六百七拾目之内、中貸

銀、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉

守・松平周防守証文を以渡

一銀八貫五百七拾七匁

同人

(八〇オ)

是は大坂川口九条・木津両御船屋向并御船具類、角・安

治川両御番所其外所々御修復御入用銀、松平伊豆守・大

久保出雲守・遠藤但馬守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判

手形を以渡

一銀六貫八百四拾九匁八分

山岡仁右衛門

森左十郎

鈴木栄助

是は大坂御城内外諸向御修復諸色代銀、去々辰年分御定

高銀六拾三貫目之内、銀五拾五貫六百七拾三匁、去々辰

年相渡、御入用高都合銀六拾貳貫五百貳拾貳匁八分之御
遣方ニ罷成、御定高と差引、銀

山岡仁右衛門

一銀三貫三百四拾三匁

森左十郎
鈴木栄助

（八一才）

四百七拾七匁式分相減候処、寛政七卯年御定高之外銀七
貫目相渡、此分年々御金藏江償戻候様被仰渡、同九巳年
迄償戻候節、御殿御屋根御修復御用代御取替銀、年割返
納相重候ニ付、償戻延引罷成候処、御取替銀返納皆済ニ
付、文政二卯年分より御定高減銀を以償戻之方江返納之
積、御金藏ニ残置、去々辰年分御入用銀、松平伊豆守・
大久保出雲守・遠藤但馬守・久世伊勢守・戸塚備前守・
矢部駿河守裏判手形、柳生主膳正・久世丹後守・根岸肥
前守・久保田佐渡守・曲淵甲斐守・大林与兵衛・村垣左
太夫・高尾惣十郎・佐久間甚八置添状を以渡

是は大坂御城内外所々、去ル丑年風損御修復臨時御入用、
凡銀高六拾三貫五百八拾四匁程之内、銀四百貳拾八匁相
減、積高銀六拾三貫百五拾六匁余之内、銀六拾貳匁三分
余、御修復取掛之上、吟味ニ付相減、残銀六拾三貫九拾
三匁余之内、銀五拾九貫七百五拾目は、去ル寅・卯年為
中貸相渡候残銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・
明葉飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下
田幸太夫・田口五郎左衛門添状を以渡

一銀八貫六百拾五匁

同人

（八二才）

一銀五拾五貫五百八拾三匁九分 同人
是は大坂御城内外諸向御修復并其外諸色代銀、去巳年御
定高銀六拾三貫目之内、松平伊豆守・大久保出雲守・酒
井飛驒守・遠藤但馬守・久世伊勢守・戸塚備前守・矢部
駿河守裏判手形、右同人置添状を以渡

是は大坂御城内西大御番衆小屋之内、東之方井戸御修復
御入用請負代銀高拾六貫四百目之内、場所取掛吟味ニ付、
七百八拾五匁相減、残銀拾五貫六百拾五匁之内、銀七貫
目は、去々辰年為中貸相渡候残銀、青山下野守・水野出
羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文を以
渡

（八一ウ）

一銀式拾七貫三百四拾目五分

同人

是大坂御城内外定式御入用御手当檜・梅・楸・松・栗
材木、今木屋安兵衛より御買上代銀、曾我豊後守・土方
出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵
五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門添状を
以渡

衛・鈴木新吉・三橋藤右衛門置添状を以渡

(八三才)

一銀拾九貫百八拾目五分

同人

是大坂川崎御材木蔵為御用足代・丸太代銀、松平伊豆
守・大久保出雲守・遠藤但馬守・久世伊勢守・戸塚備前
守・矢部駿河守裏判手形を以渡

(八二ウ)

山岡仁右衛門

一銀式貫四百五拾壹匁

同人

一銀拾八貫七百八拾目

森左十郎

但銀五拾七枚分

は大坂御城内外定式御修復御入用榎樽木、請負人檜皮
屋利兵衛より御買上代銀、曾我豊後守・土方出雲守・内
藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田
幸太夫・田口五郎左衛門添状を以渡

は大坂御破損奉行組手代組頭三人、老人ニ付銀五枚宛、
同助役老人江銀四枚、手代拾老人、老人ニ付銀三枚宛、
川崎御材木蔵番人五人、老人ニ付銀壹枚宛、去巳年中、
皆勤之者共江為御褒美被下銀、青山下野守・水野出羽守・
大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文を以渡

一銀式拾貫八拾目

同人

(八三ウ)

は大坂川崎御材木蔵御用竹・縄・藁、請負人竹屋久兵
衛・定御用達材木方源左衛門より相納候品々代銀、撰・

一金拾八兩

山岡仁右衛門

河・泉・播州割賦銀、追而相納候上、返納之積を以御取
替銀、柳生主膳正・久世丹後守・根岸肥前守・曲淵甲斐
守・間宮筑前守・佐久間甚八・大久保内膳・肥田十郎兵

式朱判拾兩式分
内 式朱銀七兩式分
は大坂御材木蔵番之者六人分御給金去巳年分、稲葉美

鈴木栄助

鈴木栄助

濃守・久世大和守・土屋但馬守定証文を以渡

塚備前守裏判手形を以渡

一金六兩

同人

（八四ウ）

式朱判三兩

内 老朱銀三兩

一銀式拾六匁五分

上田五兵衛
松崎弥兵衛

は大坂御材木蔵番之者六人、老人江老ヶ年金老兩宛、年々為御手当被下金、柳生主膳正・小笠原伊勢守・松平兵庫頭・水野若狭守・金沢瀬兵衛・羽田藤右衛門・松山惣右衛門・梶野平九郎・篠山十兵衛置添状を以渡

は大坂御弓方御用新規御征矢箱江入置候樟腦五斤、但老斤ニ付五匁三分替御買上代銀、松平伊豆守・大久保出雲守・酒井飛驒守・久世伊勢守・戸塚備前守裏判手形を以渡

（八四オ）

一銀六百七拾式匁

同人

一銀四拾目八分

同人

は大坂御城内外諸向御修復所江罷出候山村与助支配小棟梁共拾人之内、致難儀取続兼候者又は勤方厚薄等見斗御手当銀去巳年分、柳生主膳正・久世丹後守・根岸肥前守・曲淵甲斐守・間宮筑前守・佐久間甚八・大久保内膳・肥田十郎兵衛・鈴木新吉・三橋藤右衛門置添状を以渡

は大坂御弓方御用御矢筈竹、江戸表江相廻候ニ付、右荷拵御入用之品并人足賃銀、松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形を以渡

一銀式百式拾九匁

上田五兵衛
松崎弥兵衛

一銀式百五拾八匁

但銀六枚分

同人

は大坂御弓方御用樟腦・絹木綿雜巾并筆墨紙代銀、松平伊豆守・大久保出雲守・酒井飛驒守・久世伊勢守・戸

は大坂御弓奉行組同心小頭式人、老人ニ付銀三枚宛、去巳年中皆勤之者共江為御褒美被下銀、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文を以渡

一銀三百八拾壹匁三分

福嶋小左衛門
石渡彦太夫

是は定式小買物、撰津国豊嶋郡長興寺村御合葉藏御入用
物品々御用ニ付、去ル卯年より未年迄五ヶ年之間請負代
銀去巳年分、松平伊豆守・大久保出雲守・酒井飛驒守・
久世伊勢守・戸塚備前守裏判手形を以渡

を以渡

(八六才)

一銀三百五拾貳匁式分

上田五兵衛
鈴木吉兵衛

是は大坂御城御具足方為御用須本紙袋拵手間、樟腦・琉
球筵・細引・機欄箒・筆墨紙代銀、松平伊豆守・大久保
出雲守・酒井飛驒守・久世伊勢守・戸塚備前守裏判手形
を以渡

(八五ウ)

一銀六貫百三拾壹匁式分五厘

福嶋小左衛門
石渡彦太夫

是は大坂諸組鉄砲稽古鉛去巳年渡方無之ニ付、大坂御藏
御囲鉛之内より相渡候代銀、曾我豊後守・土方出雲守・
内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中
川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門添状を以渡

一銀貳百五拾八匁

但銀六枚分

同人

是は大坂御具足奉行組同心小頭式人、老人ニ付銀三枚宛、
去巳年中皆勤之者共江為御褒美被下銀、青山下野守・水
野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文
を以渡

一銀七百七拾四匁

但銀拾八枚分

石渡彦太夫
御手洗伊右衛門

是は大坂御鉄砲奉行組同心小頭六人、老人ニ付銀三枚宛、
去巳年中皆勤之者共江為御褒美被下銀、青山下野守・水
野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文

(八六ウ)

一銀五拾九匁

石渡彦太夫
幸田金一郎
久保留三郎
駒井内記

是は大坂御金蔵去ル寅年中御勘定、去ル卯年仕上、去巳七月江戸表江差下相成候御用物荷造諸入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

一金拾両

同人

内 式朱判五両
壹朱銀五両

是は大坂御金同心元ノ役式人御役金去巳年分、神谷志摩守・河野豊前守・水野対馬守・木下伊賀守・神尾若狭守・飯田七郎右衛門・遠藤六郎右衛門置添状を以渡

（八七才）

一金三拾六両

同人

内 式朱判拾八両
壹朱銀拾八両

是は大坂御金同心御金蔵御番所湯涌炭代并弁当料被下金、一ヶ月三兩宛之積去巳年分、神谷志摩守・神尾若狭守・木下伊賀守・萩原伯耆守・水野対馬守・遠藤六郎右衛門置添状を以渡

一銀壹貫五百目

同人

是は大坂御金方御役所小買物代銀去巳年分、松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形、榎原主計頭・服部伊賀守・土屋紀伊守・古川山城守・村垣淡路守・明楽八郎右衛門・勝桓兵衛・館野忠四郎・服部専蔵置添状を以渡

（八七才）

一銀壹貫百四拾六匁三分

石渡彦太夫
幸田金一郎
川崎六郎左衛門
石丸市左衛門
久保留三郎
駒井内記

是は従大坂御金蔵江戸表江御銀・唐銀・灰吹銀度々御取下并長崎表江御銀差立相成候荷造其外諸入用銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

一銀五百五拾目

三輪市十郎

(八八才)

是は御用筆墨紙其外諸人用銀去巳年分、松平伊勢守・深谷遠江守奥判手形、村垣淡路守・石川主水正・遠山左衛門尉・曾我豊後守・明樂八郎右衛門・館野忠四郎・服部伊織・鈴木伝市郎・秋月勇之進置添状を以渡

石寺八藏

一銀六貫貳百目

小嶋祐介

伊東左衛門

是は二条御藏去巳年米・大豆御藏詰ニ付日雇人足賃銀并御藏諸色御入用銀、榊原主計頭・服部伊賀守・土屋紀伊守・古川山城守・明樂八郎右衛門・勝桓兵衛・館野忠四郎・服部專藏置添状を以渡

(八八ウ)

石寺八藏

小嶋祐介

興津卯八郎

一金貳拾八兩

是は去々辰年二条御番加納備中守与力之内、老人名跡江假御抱入、同十二月被仰付、御合力米外与力並之通被下候付、去々辰年後半年分御合力米・大豆代金、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防

守・曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・中川忠五郎証文を以渡

石寺八藏

一金壹万五千四百五拾四兩

小嶋祐介

伊東左衛門

(八九才)

是は去巳年二条御番最上駿河守・菅沼織部正、同兩組御番衆、兩与力初後御合力米、五分四之米・大豆代金并兩徒同心御合力米代金、但跡登御番衆之内知行高相減候付、金百貳拾五兩減之、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守・曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門証文を以渡

同人

一金拾三兩

是は去巳年二条御番菅沼織部正組小林楠五郎、高貳百俵御合力金、五月・十月請取候処、去巳六月父家督被仰付、父知行高貳百五拾俵被下候、依之增高五拾俵分、四ツ物成之積、月勘定を以十二月割、去巳六月より当午三月

迄十ヶ月分、此五分四米拾壹石六斗六合六夕七才并拾分一大豆壹石三斗三升三合三夕三才、去巳春・夏江戸御借米御張紙同直段三斗五升入百俵ニ付金三拾五兩之積を以、右同人証文を以渡

（八九ウ）

一金拾六兩

式朱判八兩
内 壹朱銀八兩
石寺八藏
小嶋祐介
興津卯八郎
伊東左衛門

是は京都御入用取調役松井助右衛門御役金式拾五兩被下候内、去巳春・夏之分、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守定証文を以渡

一金拾九兩

式朱判九兩式分
内 壹朱銀九兩式分

是は御所勘使買物使兼大森善次郎、御役金式拾兩被下候内

（九〇オ）

去巳春・夏之分拾三兩并神谷幸藏御役金去巳春之分六兩共、右同人定証文を以渡

一金拾兩

式朱判五兩
内 壹朱銀五兩

石寺八藏
小嶋祐介
伊東左衛門

是は京都御入用取調役大森善次郎去巳七月被仰付、御役金式拾五兩被下候内、去巳夏之分八兩之内七兩は先役ニ而相渡、取足之分壹兩、同冬之分九兩共、右同人定証文を以渡

一金七兩

式朱判三兩式分
内 壹朱銀三兩式分

同人

是は

御所勘使買物使兼安川与左衛門去巳六月被仰付、御役金

（九〇ウ）

式拾兩被下候内、去巳夏之分於江戸相渡候ニ付、同冬之分、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守定証文を以渡

一金式分式朱

但式朱判

石寺八藏

小嶋祐介

伊東奎左衛門

是は二条御藏手代頭取老人病氣ニ付、去巳五月御暇被下置、同月跡役被仰付、御役金式両被下候内、三季渡之割合を以同夏之欠、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門置添状を以渡

(九一才)

一金式百壹両式分式朱

式朱判百拾壹両式分式朱
内 壹朱銀九拾両

石寺八藏

小嶋祐介

興津卯八郎

伊東奎左衛門

是は二条御藏手代頭取老人御役金并手代七人・見習手代式人并小揚頭三人・平小揚三拾五人、去巳年分御給金并見習手代老人同夏之分御給金共、阿部豊後守・土屋相模守・小笠原佐渡守・秋元但馬守并大久保加賀守・阿部豊後守・戸田山城守・土屋相模守并松平越中守・鳥居丹波守・松平伊豆守・松平和泉守定証文并村垣淡路守・石川主水正・遠山左衛門尉・松浦伊勢守・明樂八郎右衛門・

館野忠四郎・服部專藏・鈴木伝市郎并村垣淡路守・曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂八郎右衛門・館野忠四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・中川忠五郎并右同人置添状を以渡

(九一ウ)

金四千百三両

一 式朱判式千五拾三両
内 壹朱銀式千五拾両

鳥田三郎右衛門

比留間兵三郎

野田市左衛門

須田平次郎

銀式百五拾九貫六拾三匁四分

内小玉銀式拾貫目

此金四千百三両 但壹両ニ付銀六拾三匁壹分四厘替

是は去々辰年大坂御番小笠原彈正少弼・松平長門守・同両組御番衆・同向与力・同兩徒同心、去巳半年分御合力米之内、五分四米・大豆代金、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守・曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫証文并石谷備後守・安藤彈正少弼・小野日向守・松平対馬守・上遠野源太郎・川井次郎兵衛・辻源五郎・山下平兵衛置添状を以渡

（九二才）

金四千三百三拾三兩

一

式朱判式千六百六拾八兩

内 式朱銀式千六百六拾五兩

同人

銀式百七拾三貫五百八拾五匁六分

内小玉銀式拾貫目

此金四千三百三拾三兩

但右同断

是は去々辰年大坂御加番牧野山城守・大田原飛驒守・安部撰津守・稲垣長門守去巳半年分御合力米之内、三分二米・大豆代金、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文之写江松平伊豆守印形之断書并右同人置添状を以渡

（九二ウ）

金四千四百七拾六兩式分

一

式朱判式千式百六拾七兩式分

内 式朱銀式千式百九兩

鳥田三郎右衛門
比留間兵三郎

銀式百八拾壹貫六百六拾壹匁式分

内小玉銀式拾貫目

此金四千四百七拾六兩式分

内

銀式百六拾五貫五百五拾三匁八分

此金四千式百式拾兩式分

銀壹貫式百式拾六匁九分

此金拾九兩式分

但右同断

（九三才）

銀拾三貫八百四拾式匁四分

此金式百式拾兩

但右同断

銀壹貫三拾八匁壹分
此金拾六兩式分

但右同断

是は去巳年大坂御番内藤豊後守・新庄主殿頭・同両組御番衆・同両与力・同両徒同心、去巳半年分御合力米之内五分四米・大豆代金、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守・曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門証文并石谷備後守・安藤弾正少弼・小野日向守・松平对馬守・上遠野源太郎・川井次郎兵衛・辻源五郎・山下平兵衛置添状を以渡

(九三ウ)

金四千三百三拾三兩

鳥田三郎右衛門

一

式朱判式千百八拾三兩

比留間兵三郎

内 壹朱銀式千百五拾兩

西山繁兵衛

銀式百七拾貳貫六百三拾貳匁三分

中畠宇右衛門

内 小玉銀式拾貫目

此金四千三百三拾三兩 但壹兩ニ付銀六拾貳匁九分貳厘替

是は去巳年大坂御加番松平山城守・水野日向守・松平石

見守・京極甲斐守、去巳半年分御合力米之内三分二米・

大豆代金、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松

平和泉守・松平周防守証文之写江松平伊豆守印形之断書

并石谷備後守・安藤弾正少弼・小野日向守・松平对馬守・

上遠野源太郎・川井次郎兵衛・辻源五郎・山下平兵衛置

添状を以渡

(九四才)

一金五百九兩

同人

式朱判式百八拾四兩

内 壹朱銀式百貳拾五兩

是は大坂御蔵手代組頭御役金并手代并五兩取手代・小揚

頭・小揚之者去巳年分御給金、柳生主膳止・久世丹後守・

根岸肥前守・曲淵甲斐守・佐橋長門守・村垣左太夫・佐

久間甚八・大久保内膳・肥田十郎兵衛置添状を以渡

鳥田三郎右衛門

一金壹兩壹分

比留間兵三郎

内 式朱判式分式朱

野田市左衛門

内 壹朱銀式分式朱

須田平次郎

是は大坂御蔵小揚之内より老人杖突被仰付、為刀・裁付

代被下金、神谷志摩守・神尾若狭守・水野对馬守・木下

伊賀守・萩原伯耆守・遠藤六郎右衛門・児嶋孫七郎置添

状を以渡

(九四ウ)

一金拾三兩

鳥田三郎右衛門

内 式朱判六兩貳分

比留間兵三郎

内 壹朱銀六兩貳分

野田市左衛門

一金拾三兩

須田平次郎

内 式朱判六兩貳分

西山繁兵衛

内 壹朱銀六兩貳分

中畠宇右衛門

是は大坂御蔵小揚之者拾三人明跡江、去々辰・去巳年御

抱入被仰付、御給金三兩宛之内三季割合を以、曾我豊後

守・土方出雲守・内藤隼人正・明葉飛驒守・館野忠四郎・

柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・

鳥居八右衛門添状を以渡

（九五才）

鳥田三郎右衛門

比留間兵三郎

西山繁兵衛

中島宇右衛門

一銀貳貫三百六拾五匁

是は大坂御藏小買物代銀去巳年分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

一銀拾三貫百八匁六分

同人

是は大坂御城西丸・玉造・難波御米藏所々小破御修復

（九五ウ）

御入用之品々御買上代銀、諸職人・人足賃銀、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門裏判手形を以渡

鳥田三郎右衛門

一銀九百六拾八匁

比留間兵三郎

西山繁兵衛

中島宇右衛門

是は去々辰年米大坂御藏納御入用諸人足、兩人江請負被仰付候ニ付、難波御藏詰内拵人足賃金、右同人裏判手形を以渡

（九六才）

鳥田三郎右衛門

比留間兵三郎

西山繁兵衛

中島宇右衛門

一銀貳貫貳百四拾壹匁九分

内藤豊後守組

堀江新三郎

新庄主殿頭組

鈴木作兵衛

松平伊豆守家来

大久保出雲守 組与力

遠藤但馬守

戸塚備前守

矢部駿河守 組与力

是は大坂御城詰御味噌御煮込并御味噌桶四本、御煮込道具類御修復御入用銀共、松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形を以渡

(九六ウ)

一銀八貫六百八拾三匁五分

松平伊豆守家来

大久保出雲守 組与力
遠藤但馬守

は大坂御城中為御用、竹草籠・大小御状箱并白木具・御用紙、両御目付家具・桶・釣瓶寄棟小買物・釣瓶繩打賃・指釣瓶・鉄物清磨、御番所付道具・井戸車・同古車品々代銀、松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・久世伊勢守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形を以渡

一銀貳貫百七拾八匁八分

松平伊豆守家来

大久保出雲守 組与力
遠藤但馬守

戸塚備前守
矢部駿河守 組与力

は大坂御城中所々御番所并御船手御番所御用種油并御鉄砲磨・御矢根拭胡麻油代銀、松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形を以渡

(九七オ)

一銀三百三拾九匁八分

牧野山城守
大田原飛驒守 家来
安部撰津守
稲垣長門守

は大坂御城御鉄砲磨紙代銀去々辰・去巳年分、牧野山城守・大田原飛驒守・安部撰津守・稲垣長門守奥判、松平伊豆守・大久保出雲守・遠藤但馬守・戸塚備前守裏判手形を以渡

一銀八百拾七匁

大久保出雲守 組与力・同心
遠藤但馬守

但銀拾九枚分

是は拾々年鉄砲皆中ニ付為御褒美、与力壱人江銀貳枚、同心拾七人但壱人江銀壹枚宛被下銀、大久保出雲守・遠藤但馬守裏判手形、青山下野守・水野出羽守・大久保加賀守・松平和泉守・松平周防守証文を以渡

(九七ウ)

金四拾八両三分

但貳朱判

三井三人組

一 銀六匁

為替拾人組

此大判金貳枚

但壱枚ニ付金貳拾四両壹分式朱銀三匁替

是は就御用御買上大判金之代金銀、杉岡佐渡守・細田丹

波守・神谷志摩守・石野筑前守・河野勘右衛門・神尾五郎三郎・井沢弥惣兵衛置添状を以渡

（九八ウ）

唐金銀

馬場藤五郎

西村九郎右衛門

志賀理助

浅井金八郎

一 唐金九貫五拾三匁七分
唐銀四拾九貫七百七拾七匁八分

御取下唐金銀

（九八オ）

是は去々辰御年貢銀之内大坂御金蔵より去巳年為替組之者江相渡、江戸御金蔵江上納、大久保加賀守・阿部豊後守・戸田山城守・土屋相模守定証文并石谷備後守・安藤弾正少弼・牧野大隅守・小野日向守・伊奈備前守・古坂与七郎・上遠野源太郎・川井次郎兵衛・宇田川平七・吉田久左衛門置添状を以渡

（九九オ）

灰吹銀

一但州灰吹銀三百七拾貫目

御取下灰吹銀

是は右同断、右同人添状を以差下

同人

一銀六百貫目

是は右同断大坂御金蔵より臨時御取下ニ相成、去巳年為替組之者江相渡、江戸御金蔵江上納、曾我豊後守・土方

（九九ウ）

一石州灰吹銀九拾六貫目

御取下灰吹銀

出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

是は江戸表江御取下相成、道中不及幸領、一宿限宿役人共差添宿送りニ而、江戸両替町為替拾人組御用所江向、

曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門添状を以差下

(100才)

大判金貳枚

金三万六千八百七拾壹兩三分

内 式朱判九千六百七拾八兩貳朱

式朱銀九千五百拾兩貳朱

銀八千八百八拾貳貫八百七拾貳匁五分五厘

唐金九貫五拾三匁七分

唐銀四拾九貫七百七拾七匁八分

灰吹銀四百六拾六貫目

(100匁)

別口御金銀

金三千八百三兩

式朱判貳千三兩

一 内 式朱銀千八百兩

金森山城守

銀貳拾四匁

是は伊勢宇治大橋木除柱・橋姫社、風宮橋木除柱・鳥居

御造宮御入用、鶴松浜新田収納金を以相渡、不足之分并宇治橋東西之大鳥居式基御造宮御入用金銀共、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡

(101才)

一 銀四拾五貫百四拾三匁六分

内小玉銀四貫目

是は山城国桂川・淀川・木津川・加茂川筋堤川除樋去已

春御普請御入用銀、松平伊勢守・深谷遠江守裏判手形、

土井大炊頭・青山下野守・阿部備中守・水野出羽守・大

久保加賀守定証文を以渡

一 銀拾五貫三百貳拾七匁貳分

内小玉銀壹貫目

同人

是は山城国宇治川筋堤川除樋右同断、本庄伊勢守裏判手形、右同人定証文を以渡

(101匁)

一 銀壹貫四百壹匁八分

角倉帯刀

是は山城国賀茂川筋堤損所并川除等御普請代国役御入用

銀、松平伊勢守・深谷遠江守裏判手形、松平右近將監・松平右京大夫・松平周防守・板倉佐渡守・田沼主殿頭定証文を以渡

人定証文を以渡

一銀八拾貫八百目四分

矢嶋藤蔵

辻富次郎

内小玉銀八貫目

是は撰津・河内国大川通国役堤去々辰・去巳年秋迄樋川除御普請御入用銀并残銀共、久世伊勢守・戸塚備前守裏判手形、松平左近將監・松平伊豆守・本多中務大輔定証文を以渡

(一〇二六)

一銀拾貫九拾四匁四分

矢嶋藤蔵

辻富次郎

是は撰津・河内国石川・大和川通国役堤、去々辰・去巳年秋迄樋川除御普請御入用銀并残銀共、矢部駿河守裏判手形、松平左近將監・松平伊豆守・本多中務大輔定証文并柳生主膳正・久世丹後守・根岸肥前守・曲淵甲斐守・佐橋長門守・大林与兵衛・村垣左太夫・佐久間甚八・大久保内膳置添状を以渡

(一〇二七)

一銀拾五貫七百七拾目

添田一郎次

大原吉左衛門

是は撰津国大川通国役堤、去巳年秋迄川除御普請御入用銀之内、戸塚備前守・矢部駿河守裏判手形、右同人定証文を以渡

嶋

一銀五貫五百六拾三匁四分

本庄伊勢守組与力

(一〇二八)

新田往還堤・小堤破損所御普請御入用銀、本庄伊勢守裏判手形、松平伊豆守・牧野備前守・土井大炊頭・青山下野守定証文を以渡

一銀拾四貫三百五拾目

同人

是は撰津国大川通国役堤、当午年川除御普請御入用銀之内仕越之分、矢部駿河守・大久保護岐守裏判手形、右同

金千四百六拾兩

一 内老朱銀千兩

銀式拾四貫目

石原清左衛門

是は支配所大津町人并播磨国村方之者、去ル卯年御用金被仰付候金銀高之内、辰・巳両年御下ケ戻相濟候残元金式万九千式百兩・銀四百八拾貫目、文政五年より来ル丑迄式拾ケ年賦被仰渡候ニ付、去巳年分御下戻金銀、村垣淡路守・石川主水正・遠山左衛門尉・松浦伊勢守・明樂八郎右衛門・館野忠四郎・服部伊織・鈴木伝市郎置添状を以渡

(一〇三九)

一銀四貫七百四拾四匁三分

小堀主税

是は御代官所丹波国拾三ヶ村困窮夫食代拝借銀四貫七百四拾四匁三分式厘、当年より戌迄五ヶ年賦、老ヶ年分銀九百四拾八匁八分六厘四毛返納之積、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明樂飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

金五千貳百六拾三兩

一 式朱判式千三兩

一 内老朱銀式千八百兩

銀式百拾七貫式百拾九匁老分

(一〇四〇)

御除銀

一銀貳百拾九貫百五拾式匁

戸塚備前守

矢部駿河守

此金三千四百式拾四兩老分 但老兩ニ付銀六拾四匁替 是は文化七年年、大坂町人鴻池屋善右衛門外拾三人之者 江御用金被仰付、同年より三ヶ年ニ割合、同年拾万兩・同八年七万兩・同九年申年三万兩、都合式拾万兩相納候 処、同十二年より拾ヶ年ニ元金御下ケ之積を以、文政二卯年迄五ヶ年ニ

(一〇四一)

八万七千兩御下ケ相成候、殘拾老万三千兩天保元寅年より三拾三ヶ年ニ割合、老ヶ年三千四百式拾四兩老分宛、末年は三千四百式拾四兩御下ケ相成候ニ付、去巳年分、村垣淡路守・曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明

楽八郎右衛門・館野忠四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・
中川忠五郎置添状を以渡

外御金銀

一銀六拾貳貫八拾七匁六分式厘四毛

戸塚備前守

矢部駿河守

是は文化十四年大坂并兵庫津町人共江御用金被仰付相納
候内、御下ケ戻残元金五拾万七千九百八拾九匁三分・永
百拾壹文七分余、天保元寅年より御割下ケ相成候処、右
元金之内千九百五拾貳匁三分・永貳百四拾文七分余永上
納之分引之、残元金五拾万六千

一銀九百拾九貫三百拾壹匁九分六厘六毛

戸塚備前守

矢部駿河守

是は文化十四年大坂并兵庫津町人共江御用金被仰付相納
候内、御下ケ戻残元金五拾万七千九百八拾九匁三分・永
百拾壹文七分余、天保元寅年より御割下ケ相成候処、右
元金之内千九百五拾貳匁三分・永貳百四拾文七分余永上
納之分引之、残元金五拾万六千三拾六匁三分・永百貳拾
壹文余三拾三ヶ年ニ割合、壹ヶ年金壹万五千三百三拾四
匁一分・永百拾八文六分宛、末年は金壹万五千三百三拾
七匁・永七拾六文余御下ケ相成候積、去巳年分金壹万

（一〇五才）

三拾六匁三分・永百貳拾壹文余、三拾三ヶ年ニ割合、壹
ヶ年金壹万五千三百三拾四匁一分・永百拾八文六分宛、
末年は金壹万五千三百三拾七匁・永七拾六文余御下ケ相
成候積、去巳年分金壹万五千三百三拾四匁一分・永百拾
八文六分、此銀九百八拾壹貫三百九拾九匁五分九厘之内、
右同人置添状を以渡

（一〇六才）

五千三百三拾四匁一分・永百拾八文六分、此銀九百八拾
壹貫三百九拾九匁五分九厘之内、村垣淡路守・曾我豊後
守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽八郎右衛門・館野忠
四郎・中村長十郎・柑本兵五郎・中川忠五郎置添状を以
渡

銀貳百八拾壹貫貳百三拾九匁六分式厘四毛

一銀六貫九百八匁八分

跡部山城守

（一〇五才）

此金百七匁三分・永貳百文

但壹匁ニ付銀六拾四匁替

是は文化十酉年、堺町人共江御用金被仰付相納候内、御下ケ戻残元金三千五百六拾貳兩貳分、天保元寅年より三拾三ヶ年ニ割合、老ヶ年金百七兩三分・永貳百文宛、未年は金百八兩・永百文御下ケ相成候積、去巳年分右同人置添状を以渡

(一〇六ウ)

一 金六拾八兩老分
銀拾五貫三拾九匁五分
小堀主税

是は御代官所河内・和泉・撰津・播磨国村々、文化十酉年御用金銀之分、去ル寅年より三拾三ヶ年ニ割合御下ケ戻相成候ニ付、去々辰年分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸大夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

一 金拾壹兩三分
銀九匁七分
此永百五拾貳文
銀拾四貫三百目老分

但老兩ニ付
銀六拾四匁替
石原清左衛門

(一〇七オ)

是は御代官所河内・撰津・和泉・播磨・近江国村々、文化十酉年御用金銀之分右同断、右同人裏判手形を以渡

一 金式拾兩貳分
銀拾四匁

此永貳百拾九文
但右同断

矢嶋藤蔵

銀拾三貫百五拾目八分

是は御代官所撰津・河内・播磨国村々并太田備後守・松平伊豆守領分撰津国村々、文化十酉年御用金銀之分右同断、右同人裏判手形を以渡

(一〇七ウ)

一 金式兩老分
銀拾三匁
此永貳百四文
但老兩ニ付
銀六拾四匁替

辻富次郎

是は御代官所当分御預所撰津・河内国村々、文化十酉年御用金銀之分、去ル寅年より三拾三ヶ年ニ割合御下ケ戻相成候ニ付、去々辰年分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸大夫・田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎左衛門裏判手形を以渡

一 銀貳拾目三分

多羅尾鞆負

（一〇八才）

是は御代官所近江国野洲郡村々、文化十酉年御用銀之分

右同断、右同人裏判手形を以渡

一 銀貳百三匁

木村惣左衛門

是は御代官所河内国村々、文化十酉年御用銀之分右同断、

右同人裏判手形を以渡

金貳分

一 銀貳匁八分

此永四拾五文

但老兩ニ付
銀六拾四匁替

永井飛驒守家来

一 銀六貫七百六拾三匁老分

是は御預所摂津・河内国村々、文化十酉年御用金銀之分

右同断、右同人裏判手形を以渡

（一〇八才）

一 銀五匁七分

此永九拾文

但老兩ニ付
銀六拾四匁替

脇坂中務大輔家来

一 銀三百九拾七匁貳分

是は御預所播磨国村々、文化十酉年御用金銀之分、去ル

寅年より三拾三ヶ年ニ割合御下ケ戻相成候ニ付、去々辰
年分、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明楽飛驒
守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸太夫・
田口五郎左衛門・石井源左衛門・竹内平之丞・小山太郎
左衛門裏判手形を以渡

金三両貳分

一 銀拾貳匁

此永百八拾九文

但右同断

岡部美濃守家来

一 銀七百四拾四匁五分

（一〇九才）

是は御預所和泉国村々、文化十酉年御用金銀之分右同断、

右同人裏判手形を以渡

一 銀七拾貳貫五百目

大草能登守

是は長崎表古文字銀為引替、曾我豊後守・土方出雲守・
内藤隼人正・明楽飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中
川忠五郎・下田幸太夫・田口五郎左衛門添状を以渡、但
右渡方之儀は、大坂御金蔵ニ而荷造いたし、松平伊豆守
宿次証文を以、道中不及宰領、一宿限宿役人差添宿送り
ニ而長崎会所江向差下

(一〇九ウ)

一銀千貫目

牧野長門守

是は長崎表古文字銀為引替、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸大夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以渡、但右渡方之儀は、大坂御金藏ニ而荷造いたし、松平伊豆守宿次証文を以、道中不及宰領、一宿限宿役人差添宿送りニ而長崎会所江向差下

一銀七拾貳貫五百目

同人

是は右同断、江戸両替町為替拾人組御用所江向、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸大夫・田口五郎左衛門添状を以差下

金百六兩三分

銀七千五百五拾三貫六百七拾七匁六分六厘六毛

(一一〇ア)

大判金貳枚

馬場藤五郎

一銀五千四百貫目

西村九郎右衛門

内小玉銀貳百貫目

志賀理助

浅井金八郎

是は江戸表江御取下ニ相成、道中不及宰領、一宿限宿役人共差添宿送りニ而、江戸駿河町為替三井組并両替町為替拾人組

渡合

金四万貳千貳百四拾壹兩貳分

内 貳朱判壹万千六百八拾壹兩貳分
壹朱銀壹万千九百拾兩貳分

銀壹万六千九百三拾五貫八匁五分四厘

唐金九貫五拾三匁七分

唐銀四拾九貫七百七拾七匁八分

灰吹銀四百六拾六貫目

(一一〇オ)

御用所江向度々、曾我豊後守・土方出雲守・内藤隼人正・明榮飛驒守・館野忠四郎・柑本兵五郎・中川忠五郎・下田幸大夫・田口五郎左衛門・鳥居八右衛門添状を以差下

差引残而

（一一一才）

金四万七千四百七拾七兩三分

内 式朱判貳万三千五百四兩貳朱

内 壹朱銀九千四百八拾四兩壹分貳朱

小判金壹枚

貳分判貳枚

壹分判壹枚

貳朱金壹枚

外 式朱判壹枚

壹朱判壹枚

壹朱銀壹枚

丁銀 壹枚

此目四拾七匁三分

小玉銀壹ツ

此目五匁八分

銀七千四百五拾貳五百七拾貳匁七分壹厘七毛貳弗

唐金百四拾六匁四分

灰吹銀貳百三拾貳百目

内

（一一一ウ）

金四万四千五百六拾五兩貳分

内 式朱判貳万九百九拾壹兩三分貳朱

内 壹朱銀九千四百八拾四兩壹分貳朱

定式御遣方有高

銀千三百七拾貳七百貳拾六匁九分六厘八毛八弗

金貳拾壹兩

但式朱判

銀貳百三貫五百七拾九匁七分七厘六毛壹弗

別口有高

金千四百五拾兩

内式朱判千五拾兩

御除有高

銀千四百四拾貳貫四百六拾六匁五分貳厘貳毛九弗

金千四百四拾壹兩壹分

内式朱判四百四拾壹兩壹分

外有高

銀四千四百三拾三貫七百九拾九匁四分四厘九毛四弗

（一一二才）

外

去巳十二月晦日

拝借手形ニ而存之

分、別帳有、午年御勘定可相立分

一金拾六万六千貳百八拾七兩貳分・ 但 永百三拾九文貳分

内式朱判七万三千三百九拾四兩貳分・ 永六拾七文四分

是は宇治御茶師拝借、摂津国西宮宿拝借并式朱判為通用

備中・美作・播磨国村々江御貸付并荒地為御手当中国筋私領村々江御貸付并拾三ヶ年賦之口寛政十二申年相納候
 老ヶ年分元金貸付并荒地起返為御手当御貸付并但馬国阿
 震ニ而拝借銀

(一一三才)

右は天保三辰年払残元ニ立、同四巳年中納払御勘定仕上申候、
 残金銀当年之元ニ立、御勘定仕上可申候、以上

天保五甲午年十二月

山本 数馬[㊤]
 水上 右近[㊤]
 幸田 金一郎[㊤]

(一一二ウ)

金

去巳十二月晦日

一銀壹万四千六百七拾貫七百貳拾六匁 但 拝借手形ニ而有之
 六分八厘四毛 御勘定可相立分

(一一三ウ)

石渡 彦太夫[㊤]

大久保 讚岐守[㊤]

矢部 駿河守[㊤]

御勘定所

(一一四才)

如前書、天保四巳年大坂御金藏金銀納払証文を以御勘定仕上
 有之付、遂吟味、為後日覚令判形遣之候、残金銀之儀は午年
 元ニ立、可有勘定候、以上

五嶋 三六郎[㊤]

立田 岩太郎[㊤]

(割印、関保右衛門)
 戌八月

是は宇治御茶師拝借、一ツ橋殿御用銀之内御貸付銀、朝
 鮮人来朝ニ付拝借、朝鮮人參為通用拝借、銀座年寄拝借、
 廻船打立御前貸銀、在方大坂町人江御貸付銀、撰津・播
 磨国宿拝借銀、撰津国兵庫津本陣拝借并拾三ヶ年賦之口
 寛政八辰・同十二申二ヶ年相納候元銀之分御貸付并生野
 銀山水拔御手当御貸付并米価方御貸付銀、銅山方為御手
 当諸家江御貸付銀并長崎表御備金之代銀并山城・丹波国

（二一四ウ）

関保右衛門印
吉見儀助印
根本善左衛門印
村田幾三郎印
中野又兵衛印

（二一五オ）

川路三左衛門印
田口五郎左衛門印
遠山左衛門尉印
深谷遠江守印
明楽飛驒守印

（二一五ウ）

内藤隼人正印

肥後印

此帳面之勘定雖為加判之列以前之事、
此度仕上ニ付令加印候

中務印

（二一六オ）

此帳面之勘定雖為加判之列以前之事、
此度仕上ニ付可令加印処、就忌無加印
備後

越前印

和泉印

跡部山城守殿

（二一六ウ）

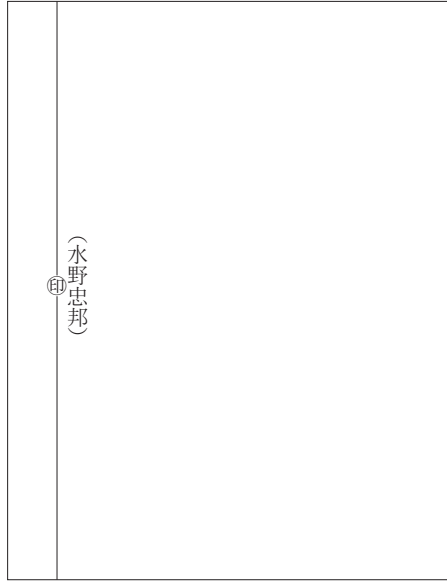
堀伊賀守殿
石渡彦太夫殿
金井伊太夫殿
近山藤四郎殿
真野半助殿
青木八五郎殿

（二一七オ）

(一一七ウ)

(後筆)
「村禿文」

(裏表紙)



(縦 310 mm × 横 232 mm)